



KIKO NETWORK ANNUAL REPORT 2009

KIKO NETWORK ANNUAL REPORT 2009

気候ネットワーク 年次報告書
2009 年度

2009.4 - 2010.3



ごあいさつ

激動の 2009 年

2013 年以降の国際枠組みの合意を目指す COP15 が開催された 2009 年は、COP3 の開催された 1997 年に匹敵する重要な年でした。2013 年以降の国際枠組みでは、世界の平均気温の上昇を 2℃未満におさえ、温暖化を生態系に安全な水準で安定化させるという大目標に向けて、2020 年までに、先進国には 1990 年比 25～40%の削減が求められています。日本にとっては、25%以上の削減目標とその目標達成のためのキャップ & トレード型国内排出量取引制度や再生可能エネルギー固定価格買取制度などの創設を盛り込んだ地球温暖化対策基本法を制定することに他なりません。

2008 年 8 月から MAKE the RULE キャンペーンで求めてきましたが、2009 年 9 月の政権交代で、一気に期待が高まりました。新政権は 25%削減目標を掲げ、日本の温暖化対策は新たな段階を迎えたといえますが、なお多くの課題も見えてきました。気候ネットワークは、国際交渉でも国内や地域の対策でも、NGO の視点から低炭素の時代へと牽引する情報発信を続け、2010 年に継続されています。



気候ネットワーク代表
浅岡 美恵

目次

ごあいさつ	・・・	2
2009 年度の活動全体について	・・・	3
国際交渉への対応	・・・	3
政策提言活動など	・・・	5
連携・協議	・・・	6
地域自治体での温暖化対策モデルづくり、活動支援	・・・	7
地域で活動するリーダー養成	・・・	7
こどもエコライフチャレンジ	・・・	7
気候ネットワーク主催のイベント	・・・	8
発行・出版物	・・・	9
収支報告	・・・	10
団体概要	・・・	11

2009 年度の活動全体について

2009 年度、気候ネットワークは、これまでどおり、国際交渉、国内・地域対策全般にわたる活動に取り組んだ。その中で、コペンハーゲン会議の合意に向けた国際交渉に関する活動が大きな柱であった。同時に、国内の対策強化、政策導入、気候保護法の実現を中心とする活動も展開した。これまでの蓄積も活かして、専門的な内容の評価・分析と情報発信、働きかけができ、地域の実践活動、ネットワークと協働による成果もあったと言える。

国内外の情勢の変化もあり、温暖化対策のレベル・内容が大きく変化している兆候もある。より幅広い連携や専門性の強化も含めて、気候ネットワークの活動、体制の一段の強化が必要となってきている。

国際交渉への対応

気候ネットワークでは、毎年開催される気候変動枠組条約の締約国会議（COP）と京都議定書の締約国会合（CMP）に代表を派遣している。2009 年度は、コペンハーゲンで開催された COP15 で 2013 年以降の次期枠組みに合意するという重要な年であった。そのため特別に開催された合計 4 回の特別作業部会にも代表を派遣し、ロビー活動をはじめ様々な活動を行った。



気候変動枠組条約第 15 回締約国会議（COP15）の全体会合

市民への普及啓発とメディアワーク

今年度最も力を入れた活動は、市民への普及啓発とメディアワークである。市民への普及啓発活動としては、COP15 に向けて、地域での連続学習会を 6、7 月に京都で 3 回、10 月に福島で 2 回、東京で国際シンポジウムを開催。連続学習会については、テキストとして「わかる！コペンハーゲン会議（COP15）- 地球温暖化をめぐる国際交渉の基礎 -」を作成、2000 部作成し、広く配布した。他にも COP15 報告会を東京と京都で開催し、気候ネットワーク関連のシンポジウムでも COP15 をテーマに開催した。

メディアワークとしては、COP 会議前には、WWF ジャパンなど他の団体と共催で事前に NGO からの記者ブリーフィングを開催。



7 月に京都で開催した連続学習会



10 月に福島で開催した連続学習会

■ 交渉会議期間中の活動

会議開催期間中は、各会議に参加して交渉をウォッチする傍らで、より良い成果を生み出すために、日本や各国の政府代表团との会合の開催、会議場通信「Kiko」の発行などを通じ、様々な場面でロビー活動を展開した。

また、地球温暖化に関する世界の NGO とネットワークである CAN との連携活動として、毎日の情報共有、英字機関紙「eco」への記事投稿、国際 NGO 連携した記者ブリーフィングの開催、化石賞の授与等のアクションなども行った。さらに、日本から取材に来た記者に対しては、毎日ブリーフィングを行い、NGO の視点から情報提供した。



交渉に後ろ向きの発言をして日本が化石賞を受賞



未来から来た宇宙人が米国の代表团にコペンハーゲン合意を訴えている



気候行動ネットワーク (CAN) の会議

■ 政府代表团への参加

2009 年 12 月の COP15 では、政権交代後の成果として、NGO の政府代表团入りが実現され、2 名のうちの 1 人として、気候ネットワークより平田仁子が代表团入りをした。これは、気候変動に関する国連交渉会議ではじめてのことであった。

参加した国連交渉会議と KIKO の発行

日程	会議名	参加者スタッフ	KIKO の発行
6 月 1 日～ 12 日	SB30 AWGLCA6 AWGKP8	1 名	3 回
9 月 28 日～ 10 月 9 日	AWGLCA7 前半 AWGKP9 前半	2 名	2 回
11 月 2 日～ 6 日	AWGLCA7 後半 AWGKP9 後半	2 名	2 回
12 月 7 日～ 15 日	COP15 CMP5 SB31 AWGLCA8 AWGKP10	4 名他ボランティアなど多数 (うち 1 名は政府代表团として参加)	4 回

政策提言活動など

2009年度は、気候変動政策に関して激動の年であった。2009年6月には、麻生太郎首相（当時）が、官邸に検討会を設置し、年末に予定されていたコペンハーゲン会議（COP15/CMP5）に向けた日本の方針として、2020年に8%削減（1990年比）を発表した。その後、8月の衆議院議員総選挙を経て政権交代が起こり、9月には、鳩山首相が25%削減を発表し、新たな方針作りに着手し、地球温暖化対策基本法案づくりが始まる。

こうした政治状況に対し、気候ネットワークでは、政策実現を図ることを目指し、さまざまな提言活動を展開した。また、独自の政策提言として、地球温暖化対策税と国内排出量取引制度の制度提案を行った。これらの活動は、MAKE the RULE キャンペーンと連動することで一層の効果を引き上げてきた。

政治への対応

◆中期目標設定への対応（2009年6月まで）

- ・政府の中期目標の検討に際し、気候ネットワークとしての分析を行い、政府関係者・国会議員に対する説明や働きかけを行った。
- ・『地球温暖化の中期目標の選択肢』の読み方と問題点などのペーパーとして整理。
- ・「地球温暖化に関する懇談会」や「自民党地球温暖化対策本部会議」での意見表明。
- ・国際NGOアバーズやWWF ジャパンとの共同による「世論調査」の実施。
- ・MAKE the RULE キャンペーンとして、アバーズと協力して新聞の一面広告（日経新聞）の発表（右写真）。

◆衆議院議員選挙後の国会議員対応（2009年9月～）

- ・143人の新人議員を含む国会議員に対して、気候変動問題に関する説明やお願い等を断続的に実施し、理解を求めていった。

◆地球温暖化対策基本法案への対応（～2010年3月）

- ・各省庁の関係者、衆参の国会議員に対し、基本法案に関し意見交換をし、働きかけを行った。



政策提言活動

◆地球温暖化対策税と国内排出量取引制度の提案

- ・あるべき制度の実現へ向け、気候ネットワークとして制度を検討し、提案として取りまとめ、各方面への提言として発表した。
- ・2009年7月、スタッフ、研究者、NGO関係者、弁護士等の有志で集まる「経済的手法研究会」を設置し、月2回のペースで研究会を開催。その結果として、2010年2月に「地球温暖化対策税と国内排出量取引の制度提案（Ver.1）」を発表。
- ・独自の国内排出量取引制度法案（モデル法案）を策定、2010年2月に発表。
- ・同提案を各方面で説明し、意見交換を行い、制度実現を図ってきた。これらの活動は、制度実現へ向け一層の力を入れて2010年度にも引き継いで実施している。

キャンペーン・連携

■ MAKE the RULE キャンペーン

2008 年 8 月にスタートした「MAKE the RULE キャンペーン実行委員会」の事務局を東京事務所が担った。2009 年度の主な活動は、①中期目標検討会をめぐる緊急集会の開催、② 2009 年衆議院議員選挙の候補者アンケートの企画実施、③議員会館内勉強会 10 回の開催、④地球温暖化対策基本法案に関する緊急集会の開催など、⑤ MAKE the RULE キャンペーン実行委員会主催のイベントやアクションの企画を進行管理したほか、実行委員会の開催などでも連絡窓口としての役割を担った。

～参考：2009 年度の MAKE the RULE キャンペーンの活動～

- 4 月 アースデイイベントに各地で参加
- 5 月 中期目標検討会に関する緊急シンポジウム開催
- 6 月 中期目標発表に向けた活動展開
25%削減選択をアピールする意見広告（アバース）協力
有識者賛同と緊急集会
- 8 月 衆議院議員選挙前候補者アンケート、マニフェスト
- 9 月 25%削減を歓迎するバラの花束アクション・2 代目シロベエのデビュー
COP15 前議員会館内勉強会スタート（2 週間に 1 回 全 5 回開催）
- 10 月 COP15 直前 全国シンポジウム
- 12 月 グローバルアクション・渋谷&京都でパレード
- 1 月 25%削減を確実に達成するための議員会館内連続勉強会
（2 週間に 1 回 全 5 回開催）



Earthday Tokyo2010 でアピールする実行委員長のシロベエ

■ 連携

各地の NGO、ネットワーク組織等との連携に加え、「温暖化防止 COP15 ネットワーク関西」、「琵琶湖・淀川環境列車」では実行委員会に参加し、地救フォーラム in 高野山等のイベントを行った。全国及び都道府県地球温暖化防止活動推進センターや都道府県地球温暖化防止活動推進員等との連携も行い、実践活動の推進や政策導入のアピールに取り組んだ。

コペンハーゲン会議および MAKE the RULE に関連するテーマと連携した活動を主に行った。連携先は、気候ネットワーク運営委員、会員団体の他に、全国及び都道府県地球温暖化対策推進センターや推進員とも、セミナーや研修を通じて行い、広がりがあった。

「温暖化防止 COP15 ネットワーク関西」「琵琶湖・淀川環境列車」実行委員会に参加し、イベントや報告会の開催に参画した。

温暖化問題に取り組む研究者・大学、日本弁護士連合会等との連携にも取り組み、書籍「世界の地球温暖化対策」（9 頁）の出版にもつながった。

地域自治体での温暖化対策モデルづくり、活動支援

2008年6月の地球温暖化対策推進法の改正を受けて、都道府県及び特例市以上の自治体に対し、従来の地域推進計画に相当する新地方公共団体実行計画の策定が義務づけられた。これを受けて温暖化対策実行計画（地域施策編）の策定、あるいは地域計画を見直し実行計画とする自治体も多いと考えられた。そこで、気候ネットワークではこれまでのノウハウを生かして、きんき環境館との協働事業として、実行計画の策定をテーマにした「環境パートナーシップ連続講座」を大阪と北近畿で各2回開催し、近畿圏自治体50以上からの参加があった。

温暖化対策実行計画の策定に関連して大阪府八尾市での計画策定（区域施策編）のための市民会議コーディネート、京都府京丹後市での実行計画（事務事業編）策定へのアドバイスを行なった。また、福井県若狭町の環境基本計画の策定支援を、2008年から引き続き行なった。その他、地方自治体へ温暖化対策関連の委員派遣も行った。

地域で活動するリーダー養成

■ 自然エネルギー学校京都

自然エネルギー普及のための人材の養成とそのネットワークづくりを目的にした、自然エネルギー学校・京都を、1999年以降、毎年開校している。2009年度は参加体験型から企画実践型の内容に大きく変更して11期目となる自然エネルギー学校・京都とこれまでの修了生を対象にしたフォローアップ講座を開催した。

■ 地域の温暖化対策促進講座

地域レベルの温暖化対策の現状と課題、条例・計画・ビジョン等について学び、地域の資源や人材の活用方法、具体的な進め方等について、ワークショップ等を通じて考える「地域の温暖化対策促進講座」を、独立行政法人環境再生保全機構地球環境基金からの委託事業として開催した。



第11期自然エネルギー学校京都企画ワークショップの様子

こどもエコライフチャレンジ

こどもエコライフチャレンジは、気候ネットワークと京都青年会議所との協働事業として、2005年に1校での実施からスタートした環境教育プログラムである。2007年度から京都市との協働事業として11校、2008年度は50校と実施校数が拡大し、2009年度は101校で実施した。

こどもエコライフチャレンジは、1回目の学習会（90分）で地球温暖化の基礎的な知識や地球温暖化と日常生活の「つながり」を学び、学習会後の休み期間（夏休み又は冬休み）は、教材「こども版環境家計簿」への取り組みを通じて各家庭で家族と一緒にエコライフに取り組む。そして、休み明けの2回目の学習会（90分）では、グループワークと発表を通じて休み期間中の取り組みを振り返り、その後の個人・家庭の取り組みや学校での活動につなげるプログラムとなっている。



『こどもエコライフチャレンジ』小学校での温暖化の授業の様子

気候ネットワーク主催のイベント

コペンハーゲンで開催された COP15 に関連するテーマで多くのイベントを開催した。

気候ネットワーク主催のイベント一覧

日程	テーマ	場所
4月23日	アメリカの気候変動と今後の動向	東京
6月20日	総会記念 温暖化防止市民シンポジウム「コペンハーゲン合意に向けて」	京都
6月26日	国際交渉連続学習会第1回「国際交渉のこれまでの流れと基礎」	京都
7月9日	国際交渉連続学習会第2回「コペンハーゲン会議の重要性とその論点」	京都
7月30日	国際交渉連続学習会第3回「最新動向—今、どうなってるの？」	京都
8月29日～ 1月30日	第11期自然エネルギー学校・京都 第1回(8/29)自然エネルギー最新動向 第2回(9/12-13)自然エネルギー普及企画づくり フォローアップ講座(10/10) ～波に乗れるか！？にっぽんの自然エネルギー～ 第3回(10/31)中間報告会 第4回(1/30)企画実施報告会	京都
9月2日	世界の地球温暖化対策 ～再生可能エネルギーと排出量取引～出版記念セミナー	京都
10月14日	低炭素のまち・京都を目指す懇談会 ～2020年25%削減 低炭素社会に向けて～	京都
10月16日	わかる！コペンハーゲン会議 国際セミナー in 福島	福島
10月17日	わかる！コペンハーゲン会議 国際セミナー in 郡山	郡山
10月23日	「地球温暖化を防ぐためのコペンハーゲン合意の全体像に迫る」 コペンハーゲン会議(COP15/CMP5)まであと1カ月半	東京
11月13日	温暖化防止シンポジウム「米国の温暖化対策・最新動向を知る」	京都
11月28日・ 29日	温暖化防止シンポジウム 市民が進める温暖化防止2009 ～コペンハーゲン合意へ～	京都
1月16日	「地域の温暖化対策促進講座」第一回 ～調べよう、探そう、地域の資源と活動のなかま～	京都
1月21日	コペンハーゲン会議(COP15/CMP5)報告会 in 東京 ～日本のNGOはコペンハーゲンをどう見たか？～	東京
1月21日	COP15CMP5報告会 in 京都 ～コペンハーゲン会議の結果と今後の国際交渉の行方～	京都
2月6日	「地域の温暖化対策促進講座」第二回 ～調べよう、探そう、地域の資源と活動のなかま～	京都



温暖化防止シンポジウム「米国の温暖化対策・最新動向を知る」



第2回地域の温暖化対策促進講座



自然エネルギー普及企画作りフォローアップ講座

11月28日～29日に開催した「市民が進める温暖化防止2009」シンポジウムでは、コペンハーゲン会議直前の情報共有、政権交代の後の国内対策動向の共有、将来ビジョン・企業や自治体の取り組みの議論をすることができた。毎年、最新動向の共有、先進事例、専門的分析を行ってきたこともあり、温暖化対策推進の役割を果たしている。今回は、国内の温暖化対策が新たな進展段階にうつりつつあることを確認することができた。

市民が進める温暖化防止 2009



全体会合パネルディスカッション



全体会「低炭素のまちづくり」



都市での温暖化対策に関する分科会



再生可能エネルギーに関する分科会



国際交渉に関する分科会

発行・出版物

ニュースレター「気候ネットワーク通信」を2カ月に1度（年6回）発行し、会員に送付した。メールニュース「Hot Talk Now!?! ほっとくの!?!」は、毎月15日と30日に（年24回）発行した。

国際交渉基礎冊子「わかる！コペンハーゲン会議」を作成した。

4月に気候ネットワーク編、「新版 よくわかる地球温暖化問題」を出版した。

8月に浅岡美恵（代表）編著の「世界の地球温暖化対策」が出版された。



収支報告

A 収入	
科目	金額 (円)
会費収入	2,572,000
寄付金収入	2,568,262
助成金収入	12,895,492
謝礼・原稿料等	831,850
受託事業収入	26,249,317
物品販売収入	1,272,048
雑収入	64,103
収入合計	46,453,072

B 支出	
科目	金額 (円)
1. 事業費	
市民啓発・情報	6,624,398
調査・研究・提言	1,389,360
経験交流・促進	287,540
国際交渉・政策参画	3,786,385
市民・NGO 支援	1,622,670
受託事業	26,831,605
事業費計	40,541,958
2. 管理費	5,955,312
支出合計	46,497,270

2009 年度収支差額	金額 (円)
前年度 (2009 年 4 月 1 日) 残高	7,749,600
経常収入合計	46,453,072
経常支出合計	46,497,270
2010 年 3 月 31 日残高	7,705,402

設立当初と比較すると、活動の拡大にともない財政規模が大きくなってきて、2008 年度から 5000 万円程度となっている。受託事業の収入が大半（約 56%）を占め、自治体や関係機関との連携による重要な活動とつながっている。会費・寄付の収入は拡大を目指していたがほぼ横這い状態が続いている。助成金も当初予算よりは多くなり、活動の実施につながった。支出は、受託事業の実施が多く、シンポジウム等の実施のための「市民啓発・情報」と国際交渉への参加が比較的多くなっている。管理費は支出の 13% 程度に抑えている。収入と支出のバランスもほぼとることができ、期末残高も前期とほぼ同額となった。

今後は、財政規模、収支バランスは保ちつつ、気候ネットワークの使命・役割を果たすための活動ができることを目指す。特に会費・寄付金の拡充に取り組む。

ご寄付ありがとうございました

2009 年度は、次の方から寄付をいただきました。（順不同・敬称略）

エヌ・ティ・ティ・レゾナント（株）、近畿宗教連盟、国際ソロプチミスト京都・たちばな、国際ソロプチミスト京都・東山、相澤昭吉、安達宏之、伊東宏、小関千秋、杉さわ、角谷尚彦、豊田玲子、中須雅治、松尾孝、光石勝久、宮田和弘、森崎耕一、喜岡笙子、渡辺さと子

気候ネットワークとは・・・

気候ネットワークは、温暖化防止のために「提案×発信×行動」する NGO/NPO です。気候ネットワークは、ひとりひとりの行動だけでなく、産業・経済、エネルギー、暮らし、地域等をふくめて社会全体を大きく「変える」ために、専門的な政策提言、情報発信とあわせて地域単位での対策モデルづくり、人材の養成・教育等に取り組んでいます。

気候ネットワークのめざすもの

わたしたちは、地球温暖化防止のために活動する全国の市民・環境 NGO/NPO のネットワークとして、多くの組織・セクターと交流・連携しながら、次のことをめざしています。

- 1 京都議定書の進展で世界の大幅削減を！
- 2 日本で 2020 年 30%削減、2050 年 80%削減を！
- 3 環境重視の社会経済システムを！
- 4 市民・地域主導で温暖化防止の促進を！
- 5 政策決定プロセスに市民参加と情報公開を！
- 6 南北の公平を目指し、南の人々との連携を！

名簿

役員

理事長	浅岡 美恵	気候ネットワーク
副理事長	須田 春海	市民運動全国センター
理事	鮎川 ゆりか	Office Ecologist
理事	井上 郡康	みやぎ・環境とくらし・ネットワーク
理事	小峰 耕二	京都府生活協同組合連合会
理事	佐々木 佳継	京都・水と緑をまもる連絡会
理事	田浦 健朗	気候ネットワーク
理事	都筑 建	自然エネルギー推進市民フォーラム
理事	西菌 大実	ストップフロン全国連絡会
理事	原 育美	環境ネットワークくまもと
理事	原 強	コンシューマーズ京都
理事	平田 仁子	気候ネットワーク
理事	山崎 求博	足元から地球温暖化を考える市民ネットえどがわ
理事	山岸 尚之	WWF ジャパン
監事	上田 敏幸	あおぞら財団
監事	榊原 義道	北山の自然と文化をまもる会

代表・副代表

代表 : 浅岡美恵 (弁護士)
副代表 : 須田春海

事務局 (2010 年 6 月)

京都事務所: 田浦健朗 (事務局長)、豊田陽介、松本志乃、榎原麻紀子、佐藤大輔、田中広子
東京事務所: 平田仁子 (東京事務局長)、桃井貴子



特定非営利活動法人 気候ネットワーク

【京都事務所】

〒604-8124

京都市中京区高倉通四条上る 高倉ビル 305

Tel:075-254-1011/Fax:075-254-1012

E-mail:kyoto@kiconet.org

【東京事務所】

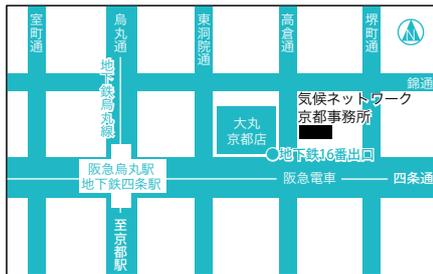
〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-7-3 半蔵門ウッドフィールド 2 階

Tel:03-3263-9210/Fax:03-3263-9463

E-mail:tokyo@kiconet.org

<http://www.kiconet.org>



阪急烏丸駅 5分・地下鉄四条駅 7分



地下鉄半蔵門駅 1分・麹町駅 5分、
JR 四谷駅 15分

気候ネットワークは多くの個人・団体・地域のネットワークによって支えられています。
引き続き、ご支援をお願いいたします。

●ご入会ください

入会いただいた方にはニュースレター等をお送りしております。

年会費 入会から1年間

個人:正会員:5,000円(1口)賛助会員:5,000円(1口)

団体:正会員:5,000円(1口)賛助会員:5,000円(1口)

*正会員として参加していただける方は総会への参加をお願いいたします。正会員・賛助会員とも、気候ネットワークから提供する情報・サービスは同じです。

●セミナー・シンポジウムにご参加ください

地球温暖化に関するセミナー・シンポジウムを開催しています。みなさまからご意見やご提案もいただき、温暖化対策の促進につなげていきたいと思っております。

●ご寄付をお願いします

皆様からのご寄付は温暖化防止のために有効に使用させていただきます。

郵便振替:00940-6-79694

(加入者名:気候ネットワーク)

銀行振替:りそな銀行 京都支店 普通 1799376

三菱東京UFJ銀行 京都支店

普通 6816184

(口座名:気候ネットワーク)

●ボランティア活動にご参加ください

ボランティア・インターンは主に京都・東京の両事務所で開催しています。常時募集しておりますので、活動に興味がある方はぜひご参加ください。